

8. 神於山に関する計画

1) 岸和田市第3次総合計画(平成13年3月 策定)

歴史的に地域住民の生活と深い関わりを有する里山・里地的な自然環境を有する丘陵部は、多様で優れた特性を活かすため、土地利用にあたっては、無秩序な開発を抑制するとともに、神於山を核としたランドワークなどによる里山保全活動の推進に努めます。

山地部を中心とする優れた自然緑地景観は関係法令の適用や「環境保全条例」の自然環境の保全制度の拡充、「都市景観条例」の運用などを通じて開発を抑制し、保全・整備を図ります。特に、神於山については、自然緑地景観のシンボルとして保全に努めます。

2) 緑の基本計画(平成12年3月 策定)

和泉葛城山の保全には前山としての神於山の保全が重要であることから、周辺の農地やため池と一体的に自然を保全創造していくための都市林として里山の整備を図ります。

市街地のほとんどから遠望でき、遠足やハイキング対象として市民に親しまれている神於山を都市林として位置付けます。そして2次林を活かして身近な自然に触れることのできる里山レクリエーションの対象地として整備を図ります。また、既に開設されている緑と太陽の丘(20.9ha)の拡充整備を図ります。

3) 都市計画マスタープラン(平成10年3月 策定)

葛城山及び神於山の自然環境の保全と再生、津田川を軸とした環境づくりとそれらを活用した自然環境との共生方策が求められています。

神於山の保全・整備、神於山ハイキングコースの整備

4) 岸和田市森林整備計画(平成12年3月 策定)

和泉葛城山山頂付近、神於山地区を中心とした「森林と人との共生林」では、森林の持つ保健休養文化等の機能の高度発揮を図り、地域住民及び府民の身近なレクリエーションの場として広く利用されるよう、多様な植生を見込んだ森林整備を推進し、景観の維持向上を図る。神於山地区においては、自然信仰の対象としての歴史が古いこと、国道170号に面しており地域住民が利用しやすいことから、保安林指定を進め公益的機能を増進させ、自然遊歩道の整備などを行い、ボランティアとの連携のもと、自然学習の場、レクリエーションの場としての森林整備を進める。

森林と人との共生林地域を中心に、住民参加による里山整備を進める。また、里山林を学習、レクリエーションの場として利用していき、地域住民の自然への関心を高める。

5) 岸和田市環境計画(平成10年3月 策定)

里山の自然を保全するため、森林、農地の計画的な育成と適正な管理が行われるよう、市民参加による新たな管理制度等について検討を行いモデル事業への展開を図ります。
所有者、市民、非営利市民団体、事業者、行政による新しい保全活動(グランドワーク)の創設に取り組むとともに、既存の保全活動とも連携して協働による神於山保全活動の推進をめざす。

